

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【保健体育／保健】

1. 対象 2年生

本授業の単元「健康を支える環境づくり」は初めて授業を行う。生徒は毎時間、真面目に授業を受けており、グループワークでも積極的に意見を出している様子が見受けられる。

2. 単元名「 大気汚染と健康 」（全1時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようになる。
思考力，判断力，表現力等	健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、健康を支える環境づくりなどと解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを他者に伝えることができるようになる。
学びに向かう力，人間性等	自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

4. 本時の目標

健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明することができるようにする。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

CO₂を削減するためには、今あなたは何かができる？どんなものが街中にあれば削減できそう？

考えるための材料

●我が国の運輸部門（自動車等）におけるCO ₂ 排出量のグラフ	●家庭からのCO ₂ 排出量のグラフ ●火力発電に頼る日本の電力の資料	●廃棄物処理とCO ₂ 排出量についてのグラフ ●日本で1年間に出るゴミの量について
想定される活動		
「自動車排出ガス削減の視点」から自動車の排気ガスを出さないようにするためにはどうしたらよいか、どのような行動をしたらよいか。	「電気使用量削減の視点」から、家庭での自分の行動で節電できる場面を考える。	「ごみ削減の視点」から、ごみを減らすことができる場面を考える。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

『CO2削減のために何ができるか、どのようなものがあればよいか考える』

【エキスパート活動】

3～4人のグループを作り、与えられた資料（考えるための材料ABCのいずれかひとつ）について資料から読みとり、CO2削減のためになにができるか、どのようなものがあればよいか考える。

『Tさんの生活で今からできるCO2削減家訓を作りましょう』

【ジグソー法】

考えるための材料ABCを検討した生徒を一名ずつで新たなグループをつくり、エキスパート活動で考えた削減方法を伝え、意見をまとめ、あらゆる視点からCO2削減家訓を作成する

【クロストーク】

エキスパート活動のグループに戻り、それぞれのジグソー活動で話し合っ作成したCO2削減家訓を伝え、意見をまとめ、最終的にそのグループで浜名ていじさんのCO2削減家訓を作成する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

材料Aの生徒

○「自動車ガスをできるだけ出さないためにはどのような行動ができるかな」

材料Bの生徒

○「節電できる場面をあげてみよう」「何か自然の力を使った発電方法もいいんじゃないか」

材料Cの生徒

○「ごみを減らすためにできることを考えてみよう」

授業最初と最後の同じ問いに対してのあらわれ

○「CO2削減するために今自分ができること」の問いに対して、何ができるのか書くことができなかった生徒も、最終的にはあらゆる視点から自分の考えを導き出すことができるようになる。